

Webブラウザでの簡単設定

本装置はWebブラウザを使って設定を行うため、お使いのパソコンやOSの種類を問わず簡単な操作で設定できます。



設定する前に

本装置を設定するための動作環境や、設定する前に必要な手順を説明します。

動作環境

Windows® 98、Windows® 95、Windows NT®、Macintoshが動作しているパソコン
3Mバイト以上の空きがあるハードディスク

設定するまでの手順

本装置はお買い求め時の設定値（工場出荷時の値）のままでも、アナログ通信機器を接続してご利用になれますが、より便利にお使いになるためには、本装置の設定が必要です。

以下の手順で、設定を行うための準備を行ってください。

1 パソコンに各ソフトウェアをインストールする

TCP/IPソフトウェア、Webブラウザなど設定に必要な各ソフトウェアの取扱説明書を参照し、端末にインストールしてください。お使いの端末によってはあらかじめインストールされている場合もあります。

詳しくは、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

2 パソコンのネットワークの設定を行う

パソコンのIPアドレスを自動取得できるように設定します。

3 パソコンの電源を切る

お使いのパソコンの取扱説明書を参照してください。

4 本装置とパソコンを接続する
(← P 30、31)

5 本装置の電源を入れる
(← P 30、31)

6 パソコンの電源を入れる

お使いのパソコンの取扱説明書を参照してください。

お知らせ

本装置がISDN回線などの電話回線に接続されていなくても、設定することができます。

パソコンの詳細設定については『クイックスタートガイド』を参照してください。

お願い

本装置には、あらかじめIPアドレス（192.52.150.1）が設定されています。本装置の設定を行う前に、既存のLANへの接続は絶対にしないでください。

設定操作のしかた

本装置の機能を活用するためには、各種パラメータを本装置に設定する必要があります。パラメータの設定方法には以下の方法があります。

	ルータ機能	電話機能	その他の機能
Webブラウザを使った設定			
コマンドを使った設定	10BASE-Tポート経由		
	シリアルポート経由		
アナログ電話機を使った設定			x

○ : 設定できます ◐ : 一部設定できます x : 設定できません

2 設定の準備をする

Webブラウザを使った設定の流れ

本装置はWWWサーバ機能を持っています。Webブラウザ（Netscape Navigator、Internet Explorerなど）を使って本装置にアクセスし、設定を行います。

1 Webブラウザを起動します。

2 URLに「http://192.52.150.1（本装置のIPアドレス）」と入力します。



3 設定画面が表示されます。



次ページへ続く

お知らせ

フレーム表示ができないWebブラウザをお使いの場合は、項目が正しく表示されないことがあります。この場合、フレーム表示ができるWebブラウザをお使いになるか、それ以外の場合は[ノーフレーム形式]をクリックしてください。

Webブラウザは一度アクセスした画面の内容を一定の期間記憶しておくことができます。再度同じ画面を表示しようとすると記憶している画面を表示するため、最新の設定内容が表示されないことがあります。最新の設定内容を表示するには、Webブラウザの履歴(キャッシュ)をクリアするか、再読み込みをしてください。

モデムを使ってインターネットに接続していた場合は、Webブラウザの接続設定をLANを使った接続に変更してから、本装置にアクセスしてください。

本装置のお買い求め時(工場出荷時)のIPアドレスは「192.52.150.1」に設定されています。はじめて本装置にアクセスするときは、URLに「http://192.52.150.1」と入力してください。

コンフィグレーションパスワードが設定されていない状態でルータ機能の設定を行うことはできません。先にコンフィグレーションパスワードを設定してください。(☞P52)

設定画面が表示されない場合は、次の内容を確認してください。

- ケーブルの接続(☞P30、31)
- 端末の設定(☞P32)

Webブラウザの操作に関しては、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

4 メニュー画面から設定したい項目をクリックし、設定を行います。

- ユーザ登録(☞P49)
- パスワード登録変更(☞P50)
- 時刻の設定(☞P54)
- ルータ設定(☞P143)
- 電話設定(☞P123)
- ダイアルアップ回線制御(☞P249)
- インフォメーション(☞P257)
- リセット(☞P39)

5 メニューから設定したい項目を選んでいくと、設定値などを入力する画面が表示される前に、ユーザIDとパスワードの入力画面が表示されます。

6 ユーザID (root) とパスワード (ログインパスワードまたはコンフィグレーションパスワード) を入力し、[OK]をクリックします。

7 設定が終わったら [送信] をクリックします。

本装置では[送信]をクリックして有効になる項目と、リセットすると有効になる項目があります。リセットすると有効になる項目を変更した場合にはリセットしてください。(☞P39)

装置をリセットする

更新された設定項目によっては、本装置がリセットされない限り本装置に対して有効になりません。設定を有効にするには本装置をリセットしてください。

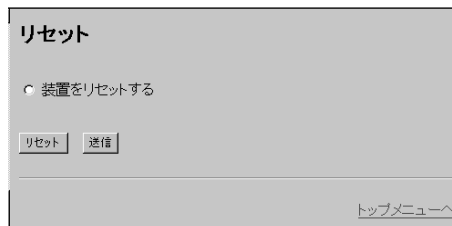
2
する
設定の準備を

- 1 設定画面を起動し、本装置にログインします。
(☞P37)



- 2 [リセット] をクリックします。

[リセット] 画面が表示されます。



- 3 [装置をリセットする] をクリックします。

- 4 [送信] をクリックします。

本装置がリセットされ、設定が本装置に対して有効になります。

コマンドを使った設定の流れ(10BASE-Tポート経由)

本装置は、コマンドを入力しても機能設定を行うことができます。

10BASE-Tポート経由で設定する場合は、ログインパスワードを登録し(☞P51)、telnetでログインしてから設定を行います。

ここではMS-DOS画面からtelnetを起動して設定する方法を説明します。その他の方法で起動する場合はパソコンの取扱説明書などを参照してください。

次ページへ続く

1 MS-DOS画面を起動します。

2 「telnet LAN側IPアドレス」を入力します。

以下では、本装置のLAN側IPアドレスに「192.52.150.1」を例としています。お使いの本装置のLAN側IPアドレスを入力してください。

```
c:\WINDOWS>telnet 192.52.150.1
```

↓ telnetが起動し、画面に次のように表示されます。

```
Login password:
```

3 ログインパスワードを入力します。

入力するパスワードは表示されません。また、カーソルも動きません。はじめてお使いになるときは、パスワードは設定されていません。[Enter]キーを押してください。

本装置にログインします。

```
Login password:
```

4 プロンプトが表示され、コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

5 ルータ機能を設定する場合はコンフィグレーションモード、電話機能を設定する場合はTELモードに移行します。(☞P41)

6 設定したい機能のコマンドを入力し、設定を行います。

- パスワード登録変更 (☞P51)
- 時刻の設定 (☞P54)
- ルータ設定 (☞P143)
- 電話設定 (☞P129)
- ダイヤルアップ回線制御 (☞P249)
- リセット (☞P42)

7 設定を保存します。(☞P42)

コンフィグレーションモードで設定を変更した場合は、本装置をリセットします。(☞P42)

モードの移行

ルータ機能を設定する場合はコンフィグレーションモード、電話機能を設定する場合はTELモードに移行してから設定を行います。

コンフィグレーションモードに移行する

- 1 コマンド入力待ち状態で「conf」と入力します。

```
#conf
```

- 2 コンフィグレーションパスワードを入力します。

入力するパスワードは表示されません。また、カーソルも動きません。

```
#conf  
Configuration password:
```

- 3 コンフィグレーションパスワードが正しいと、コンフィグレーションモードに移行し、confプロンプトが表示されます。

```
#conf  
Configuration password:  
conf#
```

TELモードに移行する

- 1 コマンド入力待ち状態で設定するTELポートを入力します。

たとえばTEL1ポートを設定するときは「tel1」と入力します。

```
#tel1
```

- 2 TELモードへ移行し、tel1プロンプトが表示されます。

```
tel1#
```

ワンポイント

コンフィグレーションモードを終了するには(☞P42)

TELモードを終了するには(☞P42)

お知らせ

コンフィグレーションパスワードが設定されていない場合は、コンフィグレーションモードへ移行できません。先にコンフィグレーションパスワードを設定してください。(☞P53)

設定操作のしかた

電話機能の設定を保存する

電話機能は、設定した時点で本装置に有効となりますが、設定内容は本装置に保存されません。

保存する場合は次の操作を行ってください。

- 1 TELモードのコマンド入力待ち状態で「9*#」と入力します。

設定が本装置に保存されます。

(例) TEL1ポートを設定中

```
tel1# 9*#
```

- 2 TELモードを終了するには、「exit」と入力します。

```
tel1# exit
```

- 3 TELモードが終了し、コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

装置をリセットする

更新された設定内容は、本装置がリセットされない限り有効になりません。設定を有効にするには必ず本装置をリセットしてください。

- 1 コンフィグレーションモードのコマンド入力待ち状態で「exit」と入力します。

```
conf#exit
```

- 2 次のように表示されたら「y」と入力します。

コンフィグレーションモードが終了し、設定が保存されます。

```
conf#exit  
configuration modified. save OK? (y/n) :y
```

3 設定が更新されているときは、「please reset#」が表示されます。

```
conf#exit
configuration modified. save OK? (y/n) :y
please reset#
```

4 「reset」と入力します。

```
please reset#reset
```

5 次のように表示されたら「y」と入力します。

本装置がリセットされます。しばらくすると（約30秒程度）ロ
 グイン画面が表示され、設定が本装置に対して有効になります。

```
please reset#reset
Do you want to continue (y/n)? :y
```

コマンドを使った設定の流れ(シリアルポート経由)

シリアルポート経由で設定する場合は、ターミナルソフトを使って設定を行います。
 ここではWindows® 98に付属されているハイパーターミナルを使って設定する方法を説明します。(☞P45)
 その他のターミナルソフトを使う場合は、パソコンの取扱説明書などを参照してください。

接続に使用するケーブルおよび通信速度

機種	ケーブル種別	通信速度
MUCHO-EX / EV	クロスケーブル	9600bps (固定)

1 パソコンでハイパーターミナルを起動しま
 ず。

2 本装置の電源を入れます。(☞P30、31)

3 ログインパスワードを入力します。

入力するパスワードは表示されません。また、カーソルも動きま
 せん。はじめにお使いになるときは、パスワードは設定されてい
 ません。[Enter]キーを押してください。

本装置にログインします。

```
Login password:
```

次ページへ続く

4 プロンプトが表示され、コマンド入力待ち状態になります。

#

5 ルータ機能を設定する場合はコンフィグレーションモード、電話機能を設定する場合はTELモードに移行します。(☞P41)

6 設定したい機能のコマンドを入力し、設定を行います。

- パスワード登録変更 (☞P51)
- 時刻の設定 (☞P54)
- ルータ設定 (☞P143)
- 電話設定 (☞P129)
- ダイヤルアップ回線制御 (☞P249)
- リセット (☞P42)

7 設定を保存します。(☞P42)

コンフィグレーションモードで設定を変更した場合は、本装置をリセットします。(☞P42)

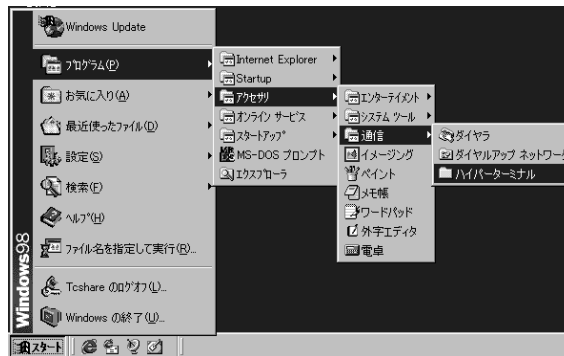
ワンポイント

モードを移行するには(☞P41)

パソコンのターミナルソフトを用意する

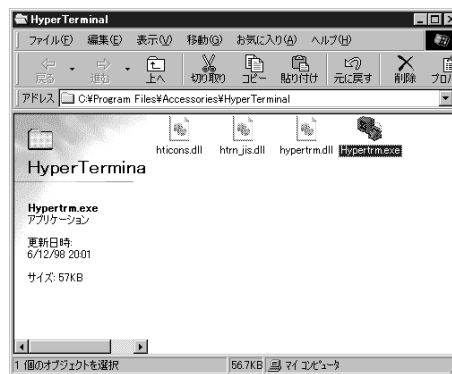
- 1 [スタート]から、[プログラム] [アクセサリ] [通信]を経て、[ハイパーターミナル]を選択します。

(Windows[®] 98メニュー画面)



2
する 設定の準備を

- 2 ハイパーターミナルのアイコン([Hyperterm.exe])をダブルクリックします。



- 3 [名前] に任意の名前を入力し、[OK] をクリックします。



次ページへ続く

4 [接続方法] に [Com 1へダイレクト] (コンソールケーブルをCom 1に接続した場合) を指定し、[OK] をクリックします。

(例) Com 1に接続したとき



5 COMポートのプロパティを入力し、[OK] をクリックします。

ビット/秒 : 9600 (固定)
 データビット : 8
 パリティ : なし
 ストップビット : 1
 フロー制御 : Xon / Xoff



6 「新しい接続」ウィンドウが表示されます。



これでターミナルソフトが用意できました。

2
する
設定の準備を

アナログ電話機を使った設定の流れ

電話機能（アナログ機能）については、本装置に接続されたアナログ電話機からも設定することができます。設定方法については、「電話機を利用した設定」を参照してください。（←P81）

設定を初期化するには

コマンド、操作ボタンを使って本装置を初期値（工場出荷時の値）に戻すことができます。初期化すると、ログインパスワード、コンフィグレーションパスワードもクリアされます。

コマンドを使って初期化する

- 1 本装置の電源を入れ、ログインします。
(☞P40、43)

```
#
```

- 2 「reset -d」と入力します。

```
#reset -d
```

- 3 コンフィグレーションパスワードを入力します。

入力するパスワードは表示されません。またカーソルも動きません。

```
#reset-d  
Configuration password:
```

- 4 確認の画面が表示されますので、リセットしてよければ「y」を入力します。

```
Do you want to continue (y/n)?: y
```

- 5 設定がリセットし、本装置が再起動します。

お知らせ

「コマンドを使って初期化する」の手順3で、コンフィグレーションパスワードが設定されていない場合は、「not yet password」と表示されますので、まずコンフィグレーションパスワードを設定してください。
(☞P52)

操作ボタンを使って初期化する

- 1 本装置の電源を切ります。

- 2 [発歴] ボタンを押しながら、電源スイッチを入れます。

前面のディスプレイに「デフォルト リセット シュウリョウ」と表示されるまで [発歴] ボタンを押し続けてください。「デフォルト リセット シュウリョウ」と表示されたのを確認し、再度電源スイッチをOFF / ONしてください。

ユーザ登録

Webブラウザを使いインターネット経由で、本装置のユーザ登録ができます。インターネットを使ってメールが送信できるときは、Webブラウザを使ったユーザ登録が便利です。弊社でのユーザ登録が完了したい、登録完了メールなどでご連絡いたします。メールによるユーザ登録のほか、FAXによる登録も行っています。付属品のユーザ登録用FAX用紙に必要事項を記入し、ユーザサポート係まで送付してください。

2 設定の準備をする

1 [ユーザ登録]をクリックします。

2 ユーザ登録内容を入力します。

購入年月日、登録者氏名などを入力してください。

3 アンケートを入力します。

4 すべての項目を入力し終わったら、登録内容を送信します。

すぐに送信するときは、[すぐ送信]をクリックします。

ボタン名	機能
後で送信	登録内容を本装置に保存します。送信しません。後で保存内容を読み出して送信することができます。
すぐ送信	登録内容を送信します。

お知らせ

装置シリアル番号は、本装置の右側面に貼付されている品名シールに記載されています。(P27)

Webブラウザからユーザ登録した場合は、FAXでユーザ登録していただく必要はありません。

また、FAXにてユーザ登録した場合は、Webブラウザからユーザ登録していただく必要はありません。

パスワードを登録、変更する

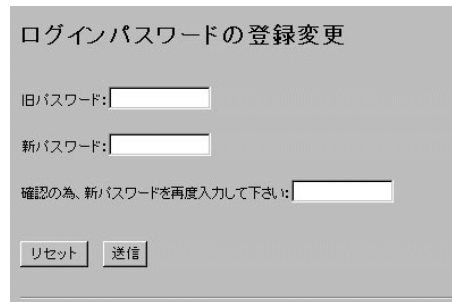
パスワードにはログインパスワードとコンフィグレーションパスワードがあります。ログインパスワードは本装置へログインする場合に、コンフィグレーションパスワードはコンフィグレーションモードに移行してルータ機能を設定する場合に入力します。コンフィグレーションパスワードが設定されていないとルータ機能は設定できません。またコンフィグレーションパスワードが設定されていないと、ファームウェアのアップデート設定ファイルの転送ができません。(←P55、56)

ログインパスワードを登録、変更する

< Webブラウザ操作 >

1 [パスワード登録変更] をクリックします。

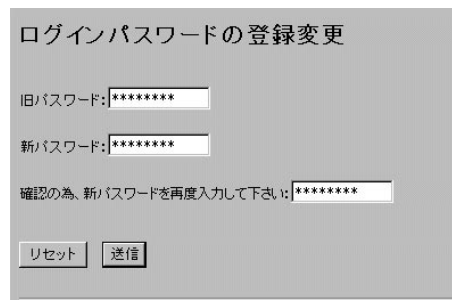
2 [ログインパスワード] をクリックします。
ログインパスワードの登録変更画面が表示されます。



3 旧パスワードを入力します。
はじめてログインパスワードを登録するときは、旧パスワードの入力は不要です。

4 新パスワードを入力します。

5 確認のため、新パスワードをもう一度入力します。



6 設定が終わったら、[送信] をクリックします。
設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

7 [OK] をクリックします。

<コマンド操作>

- 1 コマンド入力待ち状態で「password」と入力します。

```
#password
```

- 2 現在設定されているパスワードを入力します。

入力するパスワードは表示されません。また、カーソルも動きません。パスワードが設定されていない場合は「old password」は表示されませんので、手順3に進んでください。

```
#password  
old password:
```

- 3 新しいパスワードを入力します。確認のためもう一度新しいパスワードを入力します。

```
#password  
old password:  
new password:  
retype password:
```

- 4 パスワードが更新され、入力待ち状態になります。

```
#
```

2
する
設定の準備を

お知らせ

コマンドでパスワードを設定する場合、10BASE-Tポート経由、シリアルポート経由ともに操作手順は同じです。

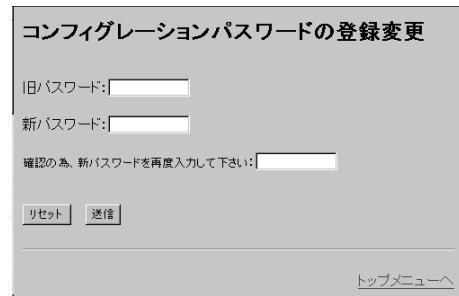
コンフィグレーションパスワードを登録、変更する

< Webブラウザ操作 >

1 [パスワード登録変更] をクリックします。

2 [コンフィグレーションパスワード] をクリックします。

コンフィグレーションパスワードの登録変更画面が表示されます。

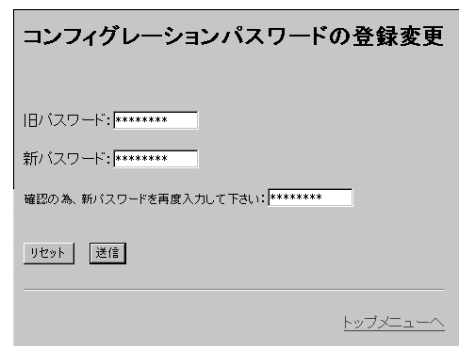


3 旧パスワードを入力します。

はじめてコンフィグレーションパスワードを登録するときは、旧パスワードの入力は不要です。

4 新パスワードを入力します。

5 確認のため、新パスワードをもう一度入力します。



6 設定が終わったら、[送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

7 [OK] をクリックします。

<コマンド操作>

- 1 コマンド入力待ち状態で「password -c」と入力します。

```
#password -c
```

- 2 現在設定されているパスワードを入力します。

入力するパスワードは表示されません。また、カーソルも動きません。パスワードが設定されていない場合は「old password」は表示されませんので、手順3に進んでください。

```
#password -c  
old password:
```

- 3 新しいパスワードを入力します。確認のためもう一度新しいパスワードを入力します。

```
#password -c  
old password:  
new password:  
retype password:
```

- 4 パスワードが更新され、入力待ち状態になります。

```
#
```

2
する
設定の準備を

お知らせ

コマンドでパスワードを設定する場合、10BASE-Tポート経由、シリアルポート経由ともに操作手順は同じです。

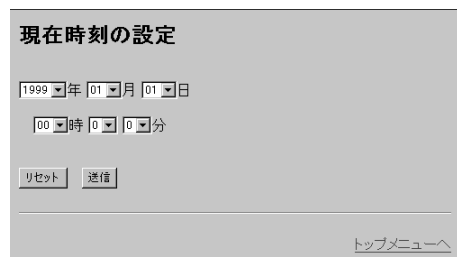
時刻の設定

本装置の現在時刻を設定します。

< Webブラウザ操作 >

1 [現在時刻の設定] をクリックします。

現在時刻の設定画面が表示されます。



2 年（西暦）、月、日、時刻を設定します。

をクリックすると一覧が表示されて、その中から設定する項目をクリックして選択することができます。

3 設定が終わったら、[送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

4 [OK] をクリックします。

< コマンド操作 >

1 コマンド入力待ち状態で「date」と入力し、続けて年（西暦）、月、日、時刻を入力します。

年は西暦の下2桁を入力します。

(例) 1999年5月5日12時0分0秒を設定する場合

```
#date 990505.120000
```

2 時刻が設定され、入力待ち状態になります。

```
#
```

お知らせ

本装置に接続した電話からも現在時刻の設定を行うことができます。(←P107)

お願い

お買い求め直後や、1週間程度電源OFFにした場合は、必ず時刻の設定を行ってください。

ファームウェアのアップデート

ファームウェアファイルを端末から本装置へ書き込み、Webブラウザで設定した設定情報を保存することができます。
(ファームウェアと設定ファイルの2種類のファイルがあります。)

< Webブラウザ操作 >

最新ファームウェアを本装置へ送信し、ファームウェアをアップデートします。まず、ホームページから最新のファームウェアを端末にダウンロードしてからアップデートしてください。

(例)「C:\mucho\update\EXFIRM」にファームウェアファイルを保存している場合

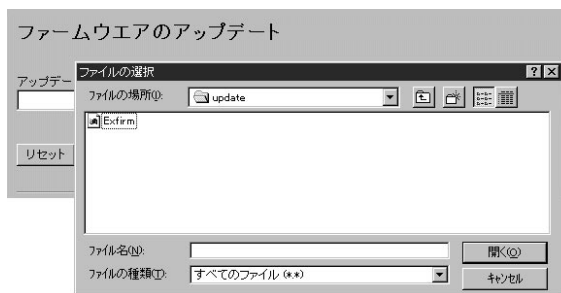
1 [ファイル転送] をクリックします。

2 [ファームウェアをアップデートする] をクリックします。

ファームウェアのアップデート画面が表示されます。



3 [参照] をクリックし、端末に保存されているファームウェアファイルを選択します。



4 設定が終わったら、[アップデート] をクリックします。

最新ファームウェアが本装置に送信されます。

5 ファームウェアのアップデート後は、本装置をリセットしてください。

お知らせ

コンフィグレーションパスワードが設定されていない状態でファームウェアのアップデートを行おうとすると、「パスワードを設定してください」というメッセージが表示され、ファームウェアのアップデートはできません。先にコンフィグレーションパスワードを設定してください。(☞P52)

最新のファームウェアは、MUCHOホームページからダウンロードして、入手してください。(☞P324)

ファームウェアのアップデート後は、本装置をリセットしてください。(☞P39)

ファームウェアのアップデート

< コマンド操作 >

FTPを使ってファームウェアをアップデートすることができます。ログインに必要なデータは下記の通りです。出荷時の状態ではパスワードが設定されていません。パスワードを設定してから操作してください。

項目	説明
HOST	本装置のIPアドレス（工場出荷時は192.52.150.1）
ユーザID	root
コンフィグレーションパスワード	本装置のコンフィグレーションパスワード
Directory	指定なし

1 FTPでログインします。

IPアドレス、ユーザID、コンフィグレーションパスワードを入力します。

```
ftp 192.52.150.1
Connected to 192.52.150.1.
220- Wait a moment. Now checking firmware.
220 FTP server ready.
Name (192.52.150.1): root ← rootと入力
331 Password required for root.
Password: ← コンフィグレーションパスワードを入力
230 User root logged in.
```

2 端末に保存されているファームウェアファイルを本装置にバイナリでPUTします。

MUCHO-EXとEVではファームウェアのファイル名が違います。下記のファイル名を使用してください。

機種	ファームウェアファイル名
MUCHO-EX	EXFIRM
MUCHO-EV	EVFIRM

```
ftp> binary
200 Type set to l.
ftp> put EXFIRM
```

3 バージョンを確認します。

本装置の中にある「FIRMINFO」ファイルを確認します。

```
ftp> get FIRMINFO -
200 PORT command ok.
150 Opening data connection for FIRMINFO (192.52.150.2,1829).
SIDE-A: VALID
ID: WAKATO
EXTID: MUEX
FIRM VER: V01.00
FILE VER: 041099
226 Transfer complete.
remote: FIRMINFO
87 bytes received in 0.0036 seconds (24 Kbytes/s)
ftp>
```

「SIDE-A」という項目が「VALID」になっていることを確認してください。「INVALID」になっていた場合、再度PUTし直す必要があります。

4 ログアウトします。

```
ftp> bye
```

お知らせ

新しいファームウェアで動作するには、本装置をリセットしてください。

⚠ 注意

「INVALID」が表示されているとき、端末および本装置の電源をOFFにしたり、リセットしたりしないでください。本装置が動作しなくなる可能性があります。

設定ファイルの転送

本装置に設定されている設定情報を端末にダウンロードして保存することができます。また、保存した設定情報を本装置にアップロードすることもできます。
本装置では、ルータ機能に関する設定と電話機能に関する設定が別々のファイルで保存されています。

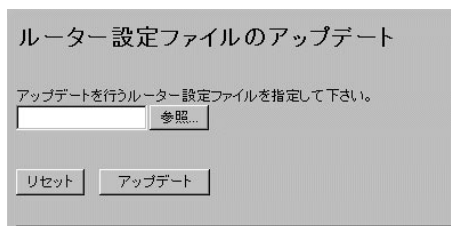
ルータ機能設定ファイルのファイル転送

< Webブラウザ操作 >

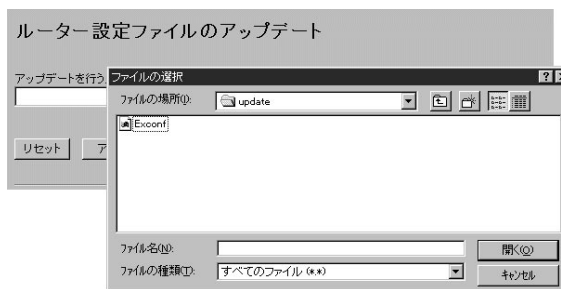
1 [ファイル転送] をクリックします。

2 ルータ機能設定ファイルをアップデートする場合は[ルーター設定ファイルをアップデートする] ルータ機能設定ファイルのバックアップをとる場合は [ルーター設定ファイルをダウンロードする] をクリックします。

(例)[ルーター設定ファイルをアップデートする]を選択した場合



3 アップデートする場合は、[参照] をクリックし、アップデートするファイルを選択します。



ダウンロードする場合は、[ダウンロード] をクリックします。

4 アップロードする場合は、[アップロード] をクリックします。ルータ機能設定ファイルをアップロードします。

ダウンロードする場合は、ファイルのダウンロード画面で [OK] をクリックすると、ダウンロードが開始されます。

設定ファイルの転送

< コマンド操作 >

FTPを使いルータ機能設定ファイルを本装置と端末の間でファイル転送することができます。ログインに必要なデータは下記の通りです。出荷時の状態ではパスワードが設定されていません。パスワードを設定してから操作してください。

項目	説明
HOST	本装置のIPアドレス（工場出荷時は192.52.150.1）
ユーザID	root
コンフィグレーションパスワード	本装置のコンフィグレーションパスワード
Directory	指定なし

1 FTPでログインします。

IPアドレス、ユーザID、コンフィグレーションパスワードを入力します。

```
ftp 192.52.150.1
Connected to 192.52.150.1.
220- Wait a moment. Now checking firmware.
220 FTP server ready.
Name (192.52.150.1): root ← rootと入力
331 Password required for root.
Password: ← コンフィグレーションパスワードを入力
230 User root logged in.
```

2 端末に保存されているルータ機能ファイルを本装置にバイナリでPUTします。

MUCHO-EXとEVではルータ機能設定ファイル名が違います。ファイル転送には下記のファイル名を使用してください。

機種	ルータ機能設定ファイル名
MUCHO-EX	EXCONF
MUCHO-EV	EVCONF

(例) 装置から読む

```
ftp>binary
200 Type set to I.
ftp>get EXCONF
```

(例) 装置へ書き込む

```
ftp>binary
200 Type set to I.
ftp>put EXCONF
```

3 ログアウトします。

```
ftp> bye
```

お知らせ

新しいルータ機能設定ファイルで動作するには、本装置をリセットしてください。

電話機能設定ファイルのファイル転送

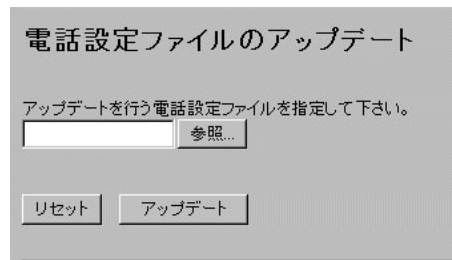
本装置のアナログ機能に関する電話設定ファイルをバックアップ/アップロードします。ファイルが保存されていれば、その設定ファイルを読み込むだけで設定し直す必要がなくなります。

< Webブラウザ操作 >

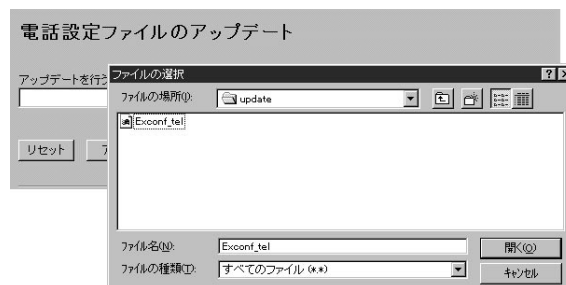
1 [ファイル転送] をクリックします。

2 電話機能設定ファイルをアップデートする場合は [電話設定ファイルをアップデートする]、電話機能設定ファイルのバックアップをとる場合は [電話設定ファイルをダウンロードする] をクリックします。

(例) [電話設定ファイルをアップデートする] を選択した場合



3 アップデートする場合は、[参照] をクリックし、アップデートするファイルを選択します。



ダウンロードする場合は、[ダウンロード] をクリックします。

4 アップロードする場合は、[アップロード] をクリックします。電話設定ファイルをアップロードします。

ダウンロードする場合は、ファイルのダウンロード画面で [OK] をクリックすると、ダウンロードが開始されます。

2
設定の準備を
する

お知らせ

本装置をデフォルトリセットした場合、電話設定ファイルは消去されます。(☞P48)

設定ファイルの転送

<コマンド操作>

FTPを使い電話機能設定ファイルの本装置と端末の間でファイル転送することができます。ログインに必要なデータは下記の通りです。

項目	説明
HOST	本装置のIPアドレス(工場出荷時は192.52.150.1)
ユーザID	root
コンフィグレーションパスワード	本装置のコンフィグレーションパスワード
Directory	指定なし

1 FTPでログインします。

IPアドレス、ユーザID、コンフィグレーションパスワードを入力します。

```
ftp 192.52.150.1
Connected to 192.52.150.1.
220- Wait a moment. Now checking firmware.
220 FTP server ready.
Name (192.52.150.1): root ← rootと入力
331 Password required for root.
Password: ← コンフィグレーションパスワードを入力
230 User root logged in.
```

2 端末に保存されている電話機能設定ファイルを本装置にバイナリでPUTします。

MUCHO-EXとEVでは電話機能設定ファイル名が違います。ファイル転送には下記のファイル名を使用してください。

機種	電話機能設定ファイル名
MUCHO-EX	EXCONF_tel
MUCHO-EV	EVCONF_tel

(例) 装置から読む

```
ftp>binary
200 Type set to l.
ftp>get EXCONF_tel
```

(例) 装置へ書き込む

```
ftp>binary
200 Type set to l.
ftp>put EXCONF_tel
```

3 ログアウトします。

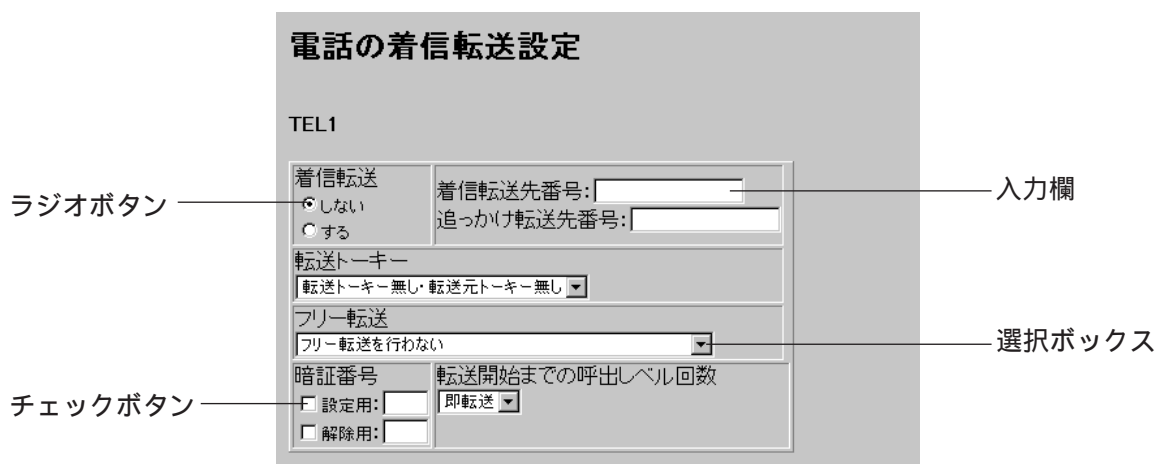
```
ftp> bye
```

お知らせ

新しい電話機能設定ファイルで動作するには、本装置をリセットしてください。

(例)

電話の着信転送設定のTEL1ポート画面



2 設定の準備をする

ラジオボタン

画面の項目の左にある や のボタンです。ラジオボタンがついている設定項目は、どれか1つしか選択できません。例えば、[着信転送]の選択では、[しない]か[する]のどちらかしか選択できません。
 が現在の設定値です。変更するときには をクリックして にします。

チェックボタン

画面の項目の左にある のボタンです。チェックボタンがついている設定項目は、複数選択することができます。例えば、[暗証番号]の選択で、[設定用]と[解除用]のいずれも選択できます。また、どちらか一方を選択する、またはどちらも選択しない設定ができます。
 クリックするとチェックマーク になります。チェックマークがつくと選択されたことになります。

入力欄

画面の入力欄があり、数値やアドレスを入力するときは、入力欄をクリックします。カーソルが表示されて、数値が入力できるようになります。

選択ボックス

選択されている項目は、選択ボックスに表示されています。 をクリックすると、選択項目の一覧が表示されて、その中から設定する項目をクリックして選択することができます。